三菱電機パッケージエアコン（R410A対応）
取扱説明書

スプリット形電算室用空調機
室内ユニット
PFD-P560(V)CMT-E(-2C)(-6)

もくじ

省エネで　守る環境　豊かな暮らし

このたびは三菱電機スプリット形電算室用空調機をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

●ご使用の前に、正しく安全にお使いいただくため、必ずこの説明書をお読みください。
●お読みになった後は、『据付工事説明書』とともに、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
●保証書は、『お買い上げ日・販売店名』などの記入をお確かめの上、大切に保管してください。
●お使いになる方が代わる場合には、本書と『据付工事説明書』および『保証書』をお渡しください。
●お客さまご自身では、据付け・移設をしないでください。（安全や機能の確保ができません。）
●受注仕様としてお買い求めいただきました製品につきましては、本書の表現が製品と一部異なる場合があります。

WT05987X03

1. 安全のために必ず守ること

- ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。
- 誤った取扱いをしたときに生じる危険の種類とその程度を次の分類で表示しています。

⚠警告	取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度
	取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- 図記号の意味は次のとおりです。

（一般注意）

（回転物注意）

（一般禁止）

（接触禁止）

（水ぬれ禁止）

（ぬれ手禁止）

（一般指示）

（アース接続）

- お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

電気配線工事は「第一種電気工事士」の資格のある者が行うこと。
気密試験は「冷凍装置検査員」の資格のある者が行うこと。

⚠警告

空気の吹出口や吸込口に指や棒などを入れないこと。
- ファンにより、けがのおそれあり。

回転物注意

当社指定の冷媒以外は絶対に封入しないこと。
- 使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災のおそれあり。
- 法令違反のおそれあり。
  封入冷媒の種類は、機器付属の説明書・銘板に記載し指定しています。
  指定冷媒以外を封入した場合、故障・誤作動などの不具合・事故に関して当社は一切責任を負いません。

禁止

移設・分解・修理をする場合、販売店または専門業者に依頼すること。改造はしないこと。
- 不備がある場合、けが・冷媒漏れ・水漏れ・感電・火災のおそれあり。

禁止

冷媒回路内に、指定の冷媒（R410A）以外の物質（空気など）を混入しないこと。
- 異常な圧力上昇による破裂・爆発のおそれあり。

混入禁止

特殊環境では、使用しないこと。
- 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による冷媒漏れ・水漏れ・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。

使用禁止

冷媒が漏れた場合の限界濃度対策を行うこと。
- 酸素欠乏のおそれあり。
- 限界濃度を超えない対策について、弊社代理店と相談して据付けること。
- ガス漏れ検知器の設置をすすめます。

指示を実行

販売店または専門業者が当社指定の別売品を取付けること。
- 不備がある場合、水漏れ・感電・火災のおそれあり。

指示を実行

冷媒が漏れていないことを確認すること。
- 冷媒が漏れると酸素欠乏のおそれあり。
- 冷媒が火気に触れると、有毒ガスが発生するおそれあり。

指示を実行

販売店または専門業者が据付工事説明書に従って据付工事を行うこと。
- 不備がある場合、冷媒漏れ・水漏れ・感電・火災のおそれあり。

指示を実行

異常時（こげ臭いなど）や不具合が発生した場合、運転を停止して電源スイッチを切ること。
- 異常のまま運転を続けると、故障や火災・感電のおそれあり。
- お買い上げの販売店またはお客様相談窓口にご連絡ください。

指示を実行

正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器<開閉器＋B種ヒューズ>・配線用遮断器）を使用すること。
- 大きな容量のブレーカーを使用すると、故障・火災のおそれあり。

指示を実行

⚠警告

C種接地工事（アース工事）は、第一種電気工事士の資格のある電気工事業者が行うこと。

●アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。
●アースに不備がある場合、ユニットがノイズにより誤動作し、感電・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。

アース接続

D種接地工事（アース工事）は、第一種電気工事士の資格のある電気工事業者が行うこと。

●アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。
●アースに不備がある場合、ユニットがノイズにより誤動作し、感電・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。

アース接続

⚠注意

フィルターを取外す場合、注意すること。

●ホコリが目に入り、けがのおそれあり。

ホコリ注意

フィルター清浄・交換など高所作業時は足元に注意すること。

●落下・転倒・けがのおそれあり。

足元注意

掃除をする場合、電源スイッチを切ること。（電源プラグ付きの製品は、プラグを抜くこと。）

●ファン・回転機器により、けがのおそれあり。

回転物注意

パネルやガードを外したまま運転しないこと。

●回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
●高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
●高温部に触れると、火傷のおそれあり。

使用禁止

可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しないこと。

●可燃性ガスがユニットの周囲にたまると、火災・爆発のおそれあり。

据付禁止

空調機の風が直接あたる所に燃焼器具を置かないこと。

●燃焼器具が不完全燃焼を起こすおそれあり。

使用禁止

空調機の風が直接あたる所に動植物を置かないこと。

●悪影響のおそれあり。

使用禁止

長時間冷風を身体に直接当てたり、冷やし過ぎたりしないこと。

●体調悪化や健康障害のおそれあり。

使用禁止

食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しないこと。

●品質低下などのおそれあり。

使用禁止

ユニットの上に乗らないこと。物を乗せないこと。

●落下・転倒・けがのおそれあり。

使用禁止

水の入った容器を製品の上に載せないこと。

●水がこぼれたとき、ショート・発火・感電のおそれあり。

使用禁止

殺虫剤・可燃性スプレーなどを製品の近くに置いたり、直接吹きつけたりしないこと。

●火災・変形のおそれあり。

使用禁止

⚠注意

濡れて困るものの上に据付けないこと。

●湿度が80%を超える場合や、ドレン出口が詰まっている場合、室内ユニットから露が落ちるおそれあり。また、室外ユニットからもドレンが出るため、必要に応じ室外ユニットも集中排水工事をすること

運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。

●流れる冷媒の状態により、低温または高温になっているため、素手で触れると凍傷・火傷のおそれあり。

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

●けがのおそれあり。

室内ユニットを水・液体などで洗わないこと。(電源を切ってからの室外ユニットの水洗いは可能です。)

●ショート・発火・感電・火災・故障のおそれあり。

濡れた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作しないこと。

●火災・感電・故障のおそれあり。

ドレン配管は断熱すること。

●結露により、天井・床などが濡れるおそれあり。

電源には漏電遮断器を取付けること。

●火災・感電のおそれあり。漏電遮断器はユニット1台につき1個設置すること。

換気をよくすること。

●冷媒が漏れると、酸素欠乏のおそれあり。

●冷媒が火気に触れると、有毒ガスが発生するおそれあり。

長期使用で据付台などが傷んでいないか定期的に点検すること。

●傷んだ状態で放置すると、ユニットの転倒・落下のおそれあり。

ドレン排水を確認すること。

●不備がある場合、水漏れにより、家財などが濡れるおそれあり。

ドレントラップの封水を確実にすること。

●不備がある場合、水漏れにより家財などが漏れるおそれあり。
定期点検時に、トラップ内に注水し、封水状態を確認すること。

販売店または専門業者が定期的に点検すること。

●ユニットの内部にゴミ・ほこりがたまった場合、ドレン排水経路が詰まり、水漏れにより家財が濡れるおそれあり。
においが発生するおそれあり。

2. 故障をさけるために必ず守ること

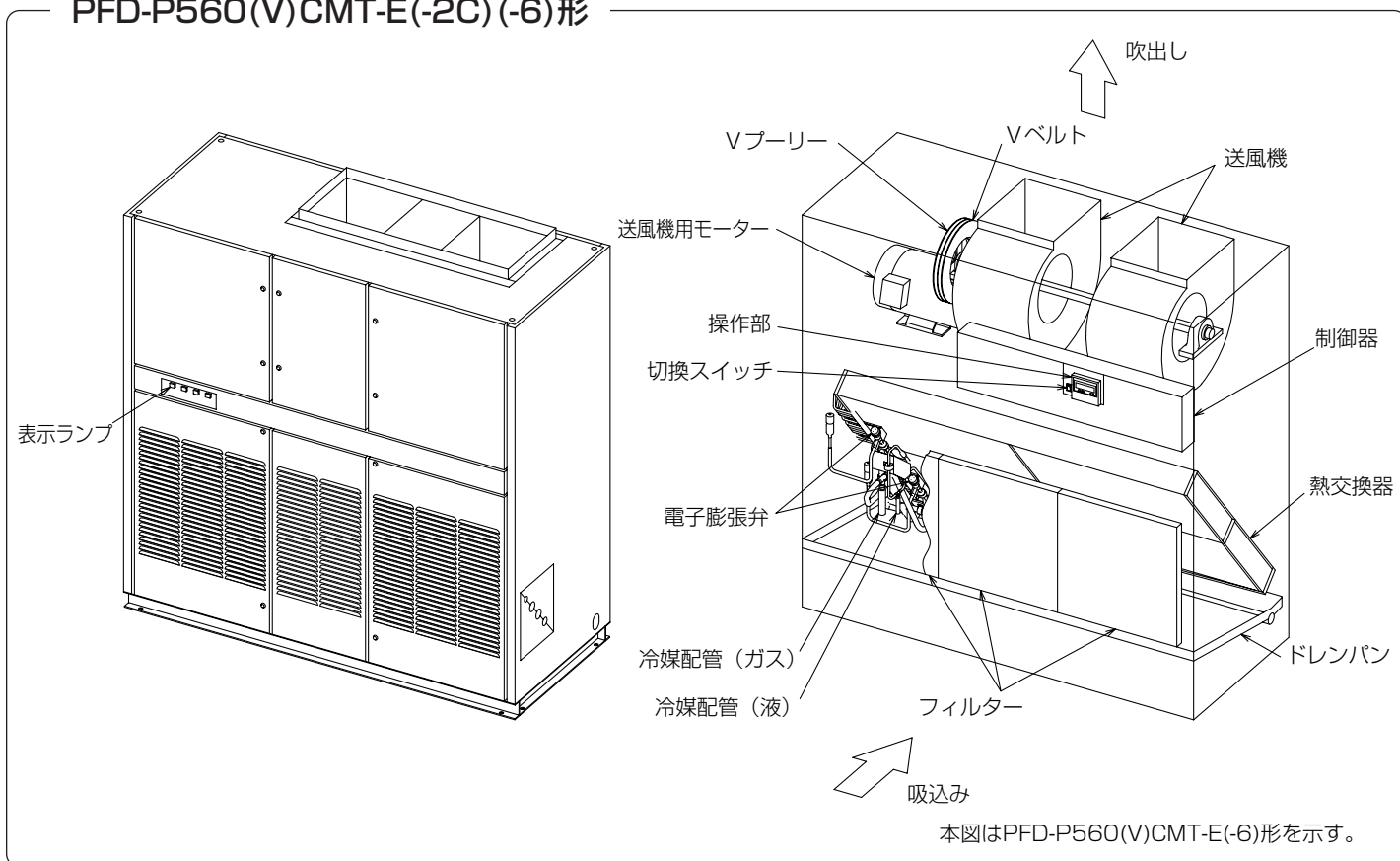
使用上のお願い

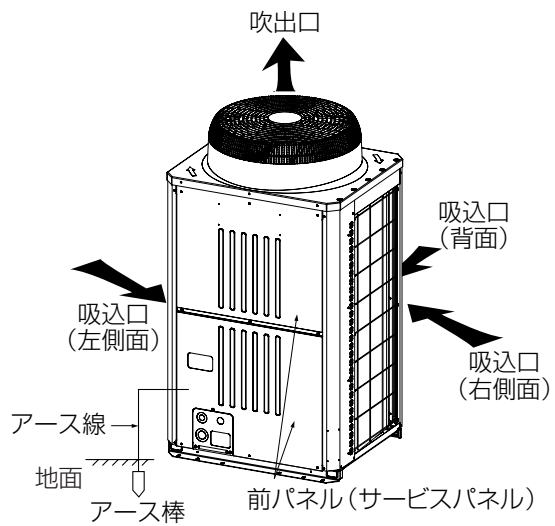
エアフィルターを外した状態で運転しないでください。 ●ユニット内部にゴミが詰まり、故障のおそれあり。	**使用温度範囲を守ってください。** ●範囲外で使用すると故障のおそれあり。
吹出口・吸込口を塞がないでください。 ●室内・室外ユニットとも風の流れを妨げた場合、能力低下・故障のおそれあり。	**運転を開始する12時間以上前に電源を入れてください。** ●故障のおそれあり。 シーズン中は電源を切らないこと。

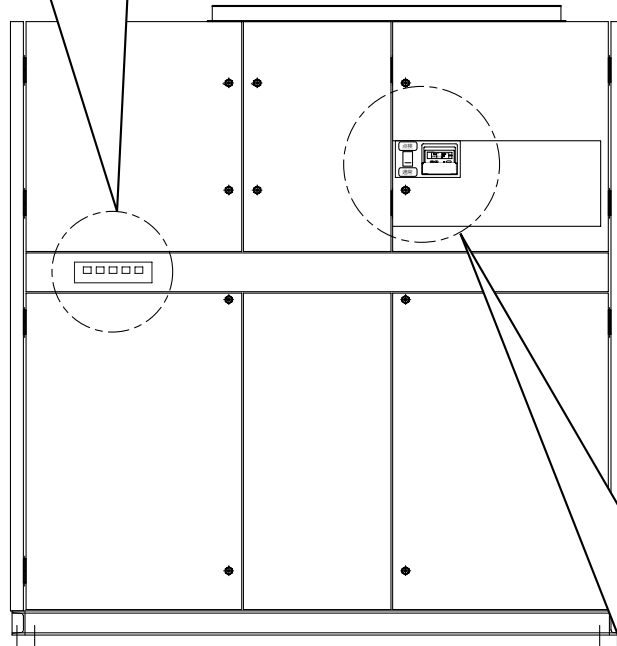
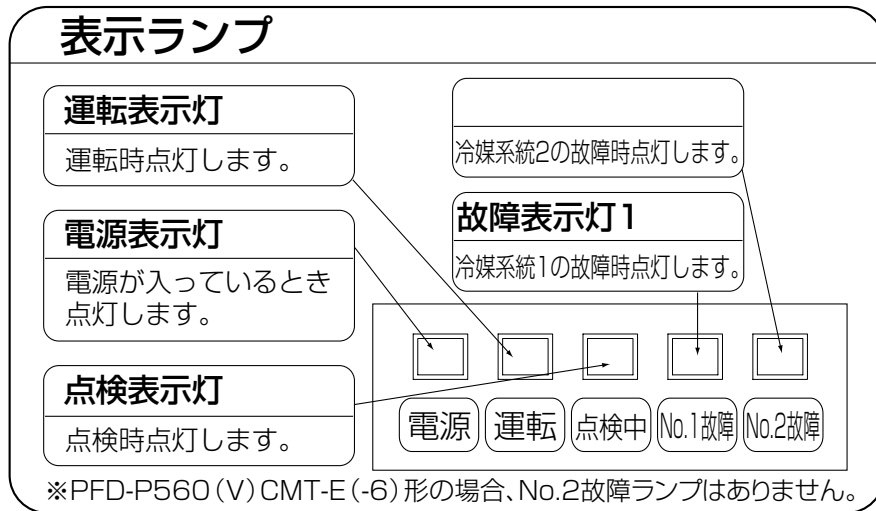
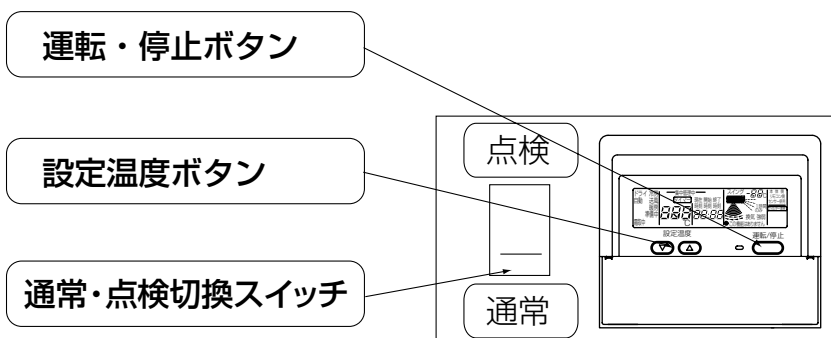
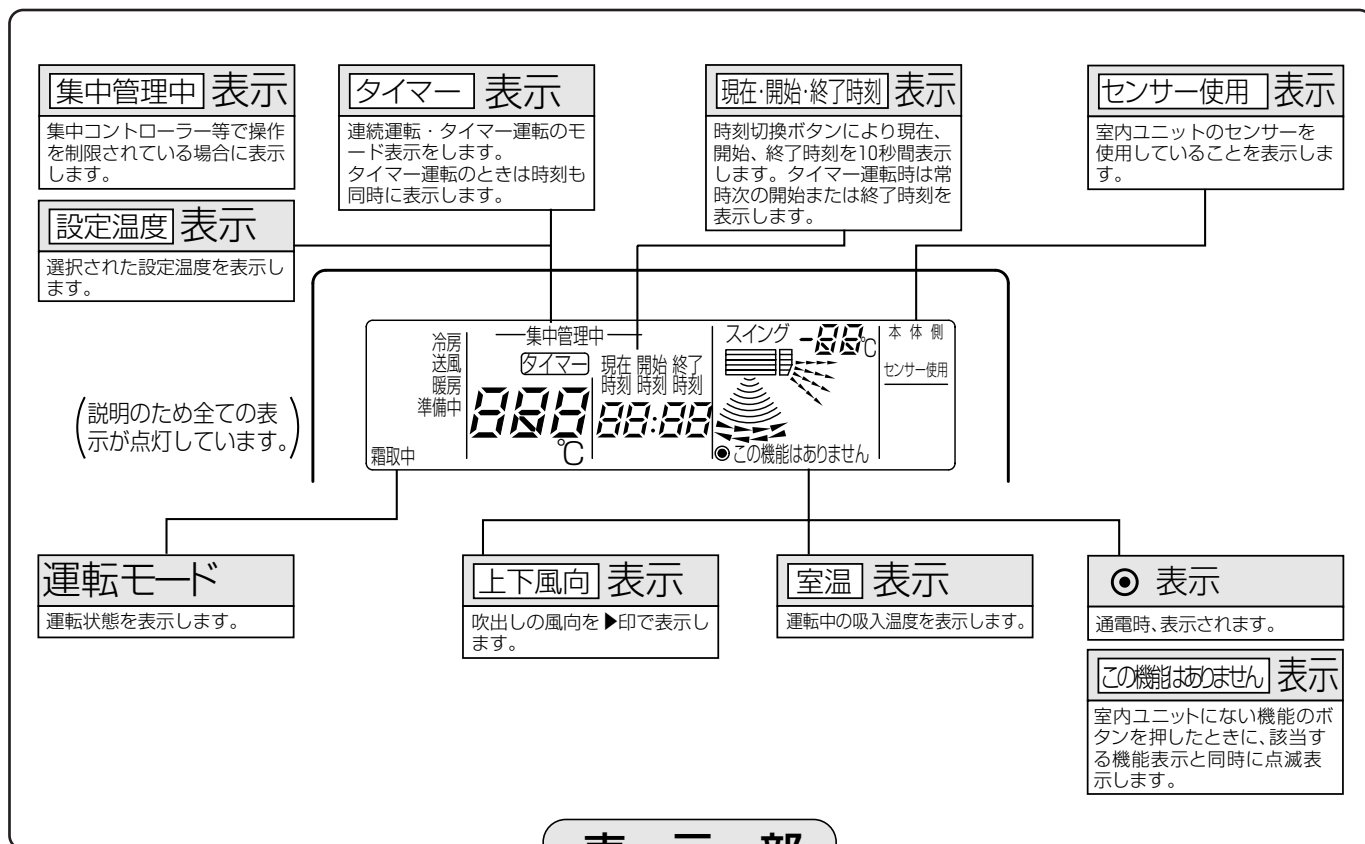
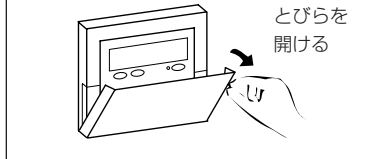
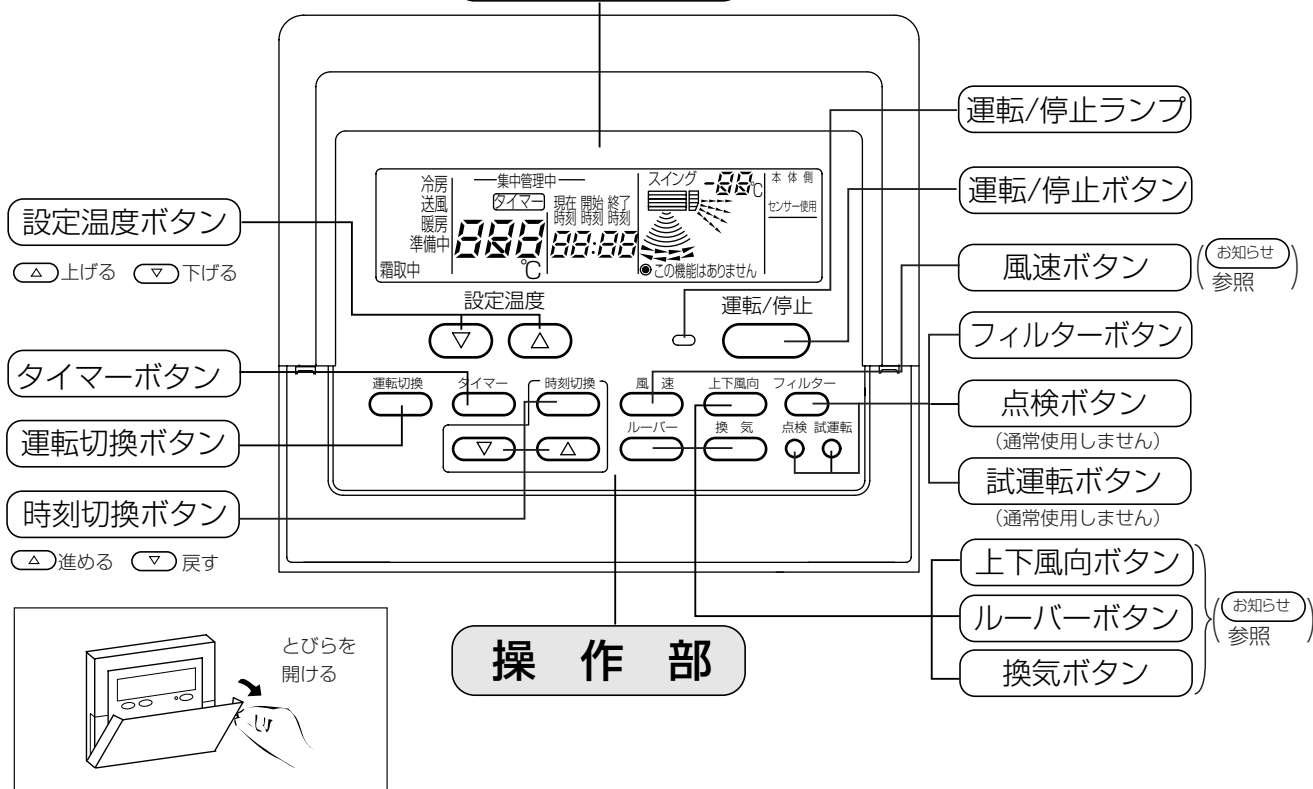
3. 各部のなまえ

室内ユニット

PFD-P560(V)CMT-E(-2C)(-6)形

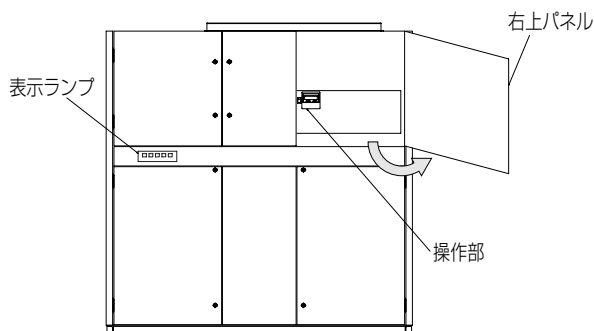
本図はPFD-P560(V)CMT-E(-6)形を示す。

室外ユニット

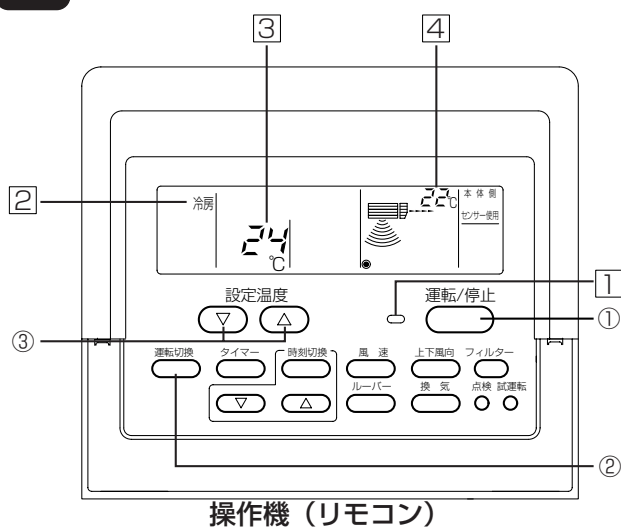
PUD-P280(V)(S)CM-E(-BS,-BSG)
PUD-RP280(V)CM-E(-BS,-BSG)
吹出口
吸込口
（背面）
吸込口
（左側面）
吸込口
（右側面）
アース線
地面
アース棒
前パネル（サービスパネル）

4. 運転のしかた

(1) 操作部の名称とはたらき

<操作機（リモコン）の表示・操作部名称とはたらき>

お知らせ

●操作ボタンを押してもその機能が室内ユニットに装備されていないため、“この機能はありません”と点滅表示が出ます。

(2) 点検のしかた

1 操作パネルを開けます。

2 運転／停止と運転モード、室温調節のしかた

操作機（リモコン）

運転を開始するとき

■（運転／停止）ボタン①を押す。
●運転ランプ1と表示部が点灯します。

お知らせ ●再運転は、下記運転内容となります。

	リモコン設定内容
運転モード	前回運転モード
温度設定	前回設定温度

運転を停止するとき

■（運転／停止）ボタン①を押す。
●運転ランプ1と表示部が消えます。

運転モードを選ぶとき

■運転中に（運転切換）ボタン②を押す。
●1回押すごとに設定が切換わります。
運転モードが2に表示されます。

冷房 → 送風

設定温度を変えたいとき

■室温を下げたいとき･･･（▽）室温調節ボタン③を押す。
■室温を上げたいとき･･･（△）室温調節ボタン③を押す。
●1回押すごとに設定温度を1℃変えられます。
設定温度が3に表示されます。
●設定できる温度範囲は次のとおりです。

冷房	送風
14～30℃※	設定できません

※吸込温度制御の場合
19～30℃

室温表示

運転中の吸込温度もしくは、吹出温度が4に表示されます。

お知らせ

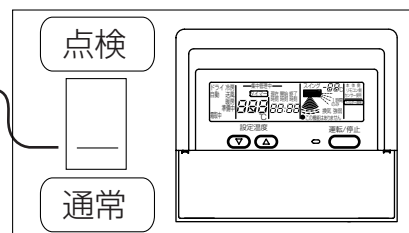
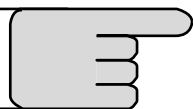
●表示範囲は8～39℃で、これを超える場合は8℃、または39℃で点滅します。
●複数台の室内ユニットを操作する場合は、リモコンへの表示は、代表室内ユニット（グループ内の一番若いアドレス）の内容が表示されます。

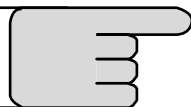
3 通常・点検切換のしかた

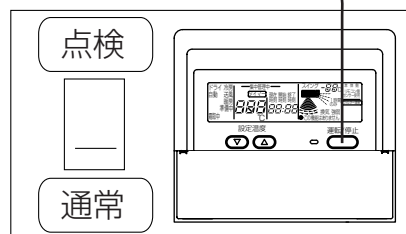
点検運転するとき

通常・点検切換スイッチを点検側に倒す

点検

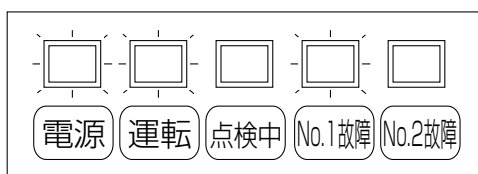
通常

4 異常リセットのしかた

表示ランプの故障表示灯が点灯して、その異常をリセットしたいとき

運転が始まります。

※販売店または専門業者による修理が終了して、安全を確認してからリモコンの運転／停止スイッチを押してください。
お客さま自身で修理しないでください。

ご注意

- ●運転を停止するとき、通常モードでは停止できません。点検モードに切換えてから、運転・停止スイッチを押してください。ただし、室内ユニット制御基板のスイッチ1-10がONの場合（遠方発停入力を使用しない場合）には、通常モードでも操作機（リモコン）での発停操作は可能です。
- ●点検モード中は遠方発停入力や集中操作機（別売）からの運転・停止操作はできません。
- ●集中操作機（別売）からの運転・停止および温度設定等の操作は、集中操作機の取扱説明書をご覧ください。
- ●リモコン操作から運転・停止へ切換る場合、数秒かかることがありますが、異常ではありません。
- ●停電復帰後、空調機が自動的に運転を再開した後、最大1分間MAリモコン表示部に「HO」表示します。この間、MAリモコンを操作することはできません。緊急停止させたい場合は、漏電遮断器にて電源をOFFしてください。

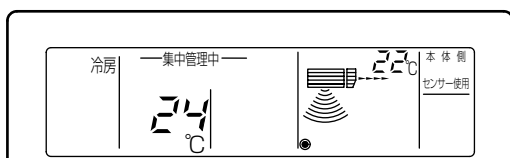
(3) その他の表示・点滅について

故障表示灯1.2の点灯

（例）左図はPFD-P560(V)CMT-E-2C(-6)形の冷媒系統1の故障時を示しています。
※PFD-P560(V)CMT-E(-6)形は、No.2故障ランプはありません。

● 「運転表示灯」と「故障表示灯」の両方が点灯している場合は、空調機に障害が発生し、運転を継続できずに停止しているか、応急運転をしています。
操作機に表示されています、ユニットナンバー、エラーコードをメモして、サービスをお申しつけください。

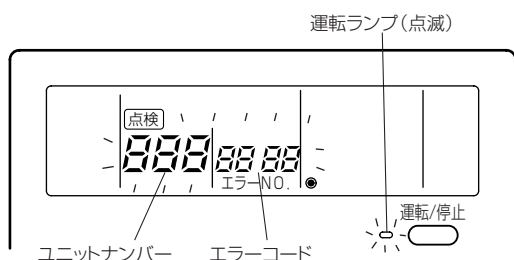
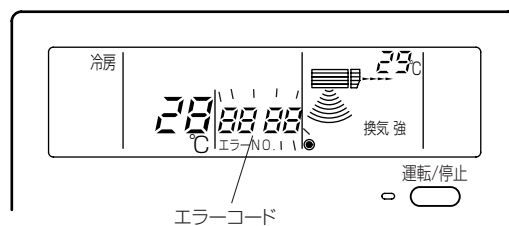
●故障表示灯が消えている冷媒系統は正常に動作しています。

操作機（リモコン）の表示

集中管理中表示

●外部発停入力、システムコントローラー（別売）などで、操作を制限しているときに表示します。制限される操作は以下のとおりです。
・運転／停止
・運転モード
・設定温度

お知らせ

●個々に制限される場合もあります。

エラーコードの点滅

● 「運転ランプ」と「エラーコード」の両方が点滅している場合は、空調機に障害が発生し、運転を継続できずに停止しています。
ユニットナンバー、エラーコードをメモして空調機の電源を切り、サービスをお申しつけください。

● 「エラーコード」のみが点滅している場合
（運転ランプは点灯したまま）
空調機は運転を継続していますが、障害が発生している可能性があります。
エラーコードをメモして、サービスをお申しつけください。

上手な使い方

上手な使い方ー上手に正しくお使いいただき、快適な室内環境をお作りください。

冷房時は熱の侵入を少なく

●冷房時直射日光の当たる窓にはブラインド、カーテンをひくなどして熱の侵入を少なくしましょう。
●出入口は必要なとき以外は開けないようにしましょう。

長時間直接お肌に風をあてない

●長時間エアコンの風が直接身体にあたると体調を悪くしたり、健康障害の原因になります。

フィルターの清掃をしてください

●フィルターの目詰まりは風の流れを悪くし、性能が落ち、電力のムダ使いとなります。また、露つき、露たれの原因にもなります。
●フィルターは通常の環境では約2500時間ごとに清掃してください。

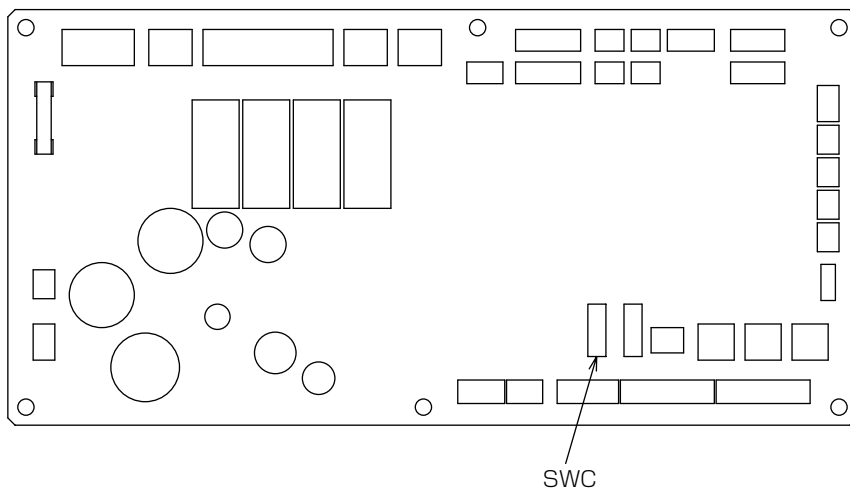
吸込み温度制御での温度設定にご注意

●吸込み温度制御で温度設定を低くすると、吹出し温度が低くなり階下等の建物が結露する原因になります。

もっと知りたいとき

室内ユニット吸込み温度／吹出し温度制御について

本機種は、上記のいずれかの温度制御が選択可能です。
図に示す室内ユニットの制御器内の制御基板上のスイッチSWCにて切換えが可能です。
製品出荷時は、吹出し温度制御設定（SWCが「OFF」設定）になっています。
制御変更する場合は、
　　吸込み温度制御にする場合：「ON」設定
　　吹出し温度制御にする場合：「OFF」設定　　にしてください。
※室内ユニット内に、制御基板が複数枚ある機種は、室内ユニット内の制御基板のスイッチを同一設定にしてください。

制御基板

使用温度範囲

●使用温度の範囲から外れたところで使用しますと、重大な事故の原因となります。

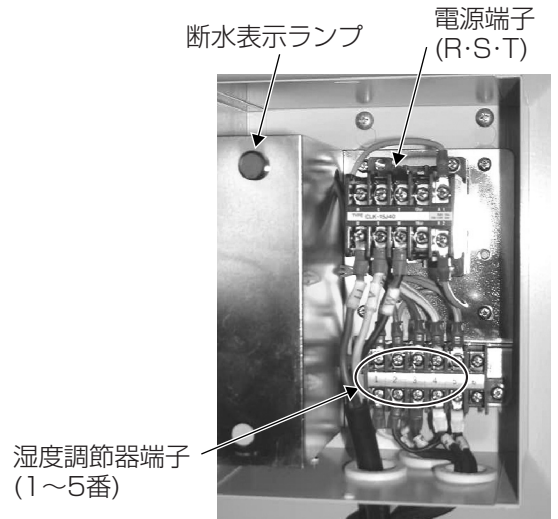
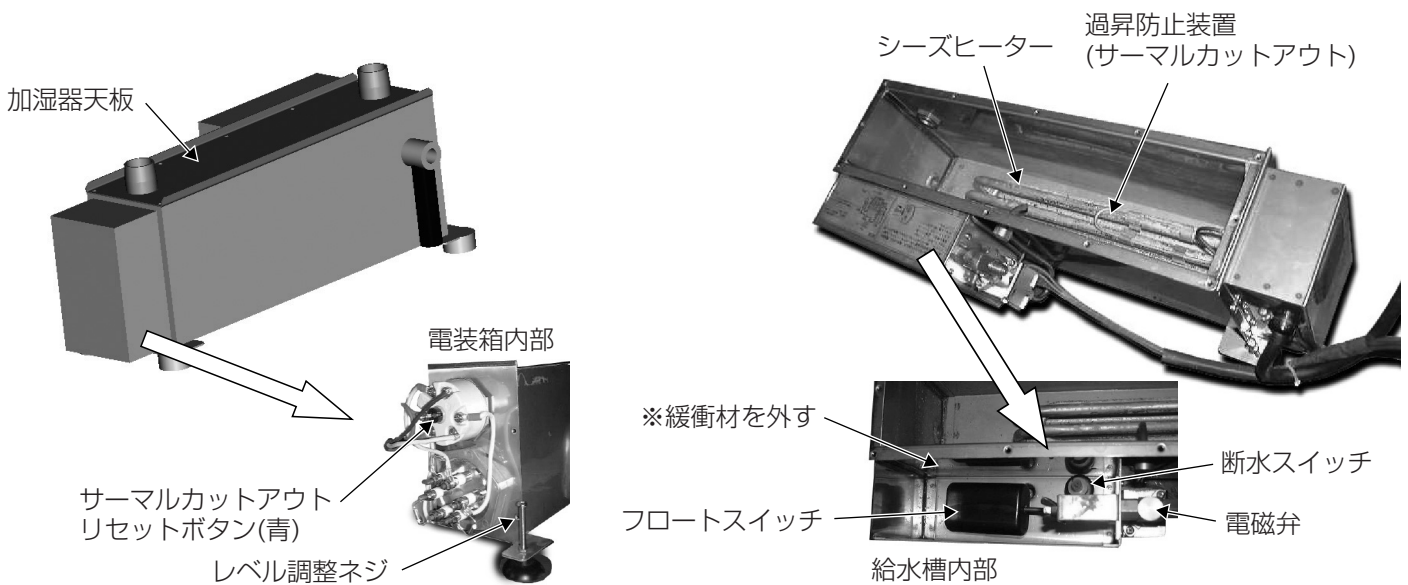
		室内	室外
冷　房	乾球温度	19℃～35℃	-15℃～43℃
	湿球温度	12℃～24℃	―

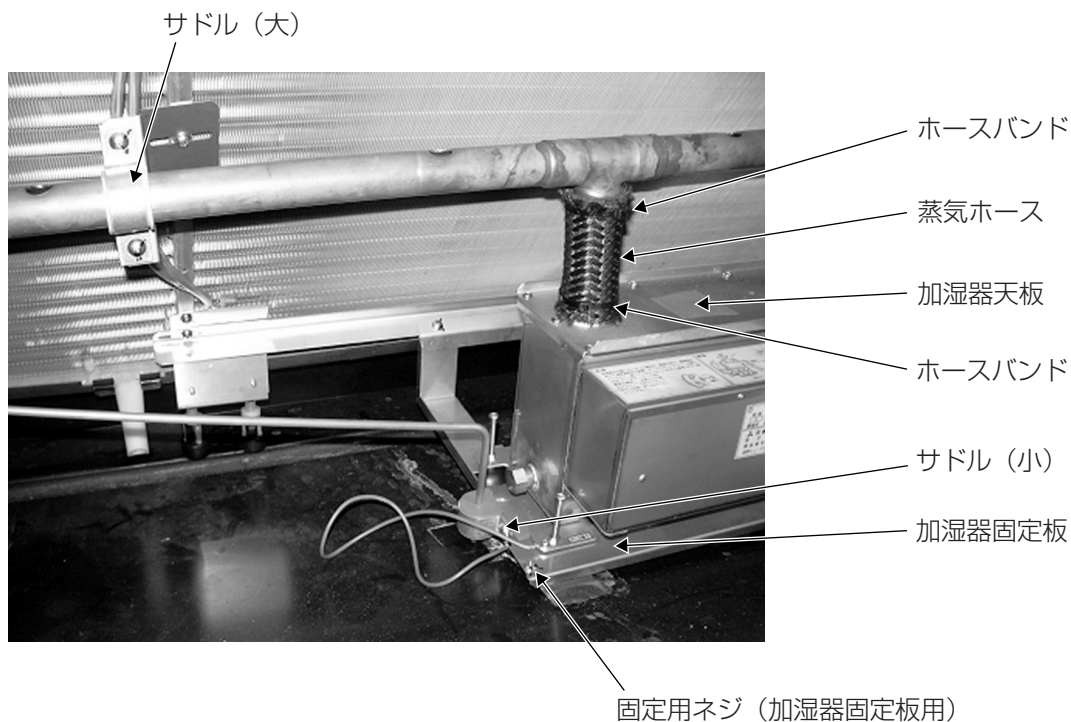
※室内外共に使用可能な湿度の目安は、相対湿度30～80%です。

5. 加湿器取扱について

取扱要領

（1）ご使用前の注意事項

①湿度調節器<現地手配>は、必ず室内の湿度ムラのない場所に設置し、相対湿度55%以下の設定でご使用ください。（高湿度下でご使用されますと本体内に結露し、水漏れします）
②給水圧力は0.03～0.5MPaとし、水温は0～80℃の範囲としてください。
③給水は上水を使用してください。
※給水中の硬度が高い場合は軟水装置の設置をおすすめします。
軟水装置をご利用の場合はイオン交換樹脂の再生にご注意願います。
指定量を超える再生剤を充填する等の不備があると腐食傾向の水が供給され、加湿器及び本体の接水部品が腐食し、水漏れします。詳細は装置の説明書を参照し、正しくお取扱いください。
④加湿器の給水槽の中にフロートスイッチの緩衝材がありますので外してください。
⑤加湿器が水平に設置されているか、ご確認ください。傾いている場合はレベル調整ネジで水平度を出してください。(勾配1／100以内)
⑥試運転を行い、各配管接続部からの水漏れ、接続管に折損に至る著しい振動がないかを確認してください。

● 各部名称

（2）各部の着脱方法（分解順に記載しています。取付は逆の手順で組立ててください。）

<蒸気ノズルと蒸気ホースの取外し>
①熱換器側のサドル(大)と加湿器本体側のサドル(小)の固定ネジを外します。
②加湿器本体の天板に接続されている蒸気ホース2本を根元のホースバンドを緩めて外します。
③蒸気ノズルに接続されている蒸気ホース2本を根元のホースバンドを緩めて外します。

<加湿器本体の取外し>
①加湿器の電源線・信号線を外します。(加湿器制御箱内の端子接続部)
②給水管を取外します。（フレアナット）
③加湿器足の固定板を取外します。(ネジ2本)
　手前から加湿器本体を取外します。

（3）ご使用時の注意事項

①頻繁にON／OFFする場合、吸込口から加湿器内の残留蒸気が出ることがありますが、異常ではありません。
(吸込口上部に煙感知器を設置しないでください。残留蒸気で誤検知する場合があります)
対応として、加湿器の電源ラインに接点を設け、本体を停止する前に加湿器を停止させてください。(5分程度)
②湿度調整器は相対湿度55%以下の設定で運転してください。
それ以上の設定で運転しますと、本体内が結露して水漏れします。
③本体フィルターの清掃を怠らないでください。
フィルター目詰まりで風量が低下すると、本体内が結露して水漏れします。

（4）メンテナンス

①このベーパーパン加湿器は運転時間が合計5時間に達する度に自動的にオーバーブローし、濃縮された槽内の水を排水させ、スケールの発生を抑制していますが、スケールの付着は完全にはなくなりませんので、2ヶ月に1回程度の割合で槽内のスケールを排出して清掃してください。
②長期に渡って使用されない場合は、ドレン抜きから槽内の水を抜いてください。
給水管から水の出方が悪くなったり、水が出なくなった場合はストレーナーを清掃してください。
ただし、この時制御箱の断水ランプが点灯する可能性がありますので、湿度調節器の設定値を低くする、現地配線に遮断スイッチを追加する、加湿器を非通電状態にするなどして加湿指令が入力されないようにしてください。
給水管からの水の出方が悪くなったり、水が出なくなった場合はストレーナーを清掃してください。
③ベーパーパン加湿器が作動しなくなった場合は、電装箱を開け(ネジ4本)、過昇防止装置(サーマルカットアウト)を調べてください。過昇防止装置が作動していると、リセットボタン(青色)が2～3mm飛出しています。異常を確認し、正常に戻した後、ドライバーの先でリセットボタンを押込んでリセットしてください。
※過昇防止装置が作動している要因は、主に断水スイッチの故障、または槽内のスケール溜まりが考えられます。
(断水スイッチ：給水槽内のフロートスイッチ)
④加湿器の排水トラップ、本体のドレン配管にスケールが溜まっていないか、ストレーナーに汚れ・詰まりがないか、ご確認ください。汚れがひどい場合は取外して清掃してください。
⑤製品を良好な状態で長く安心してお使いいただくために、専門技術者による定期点検を下表を参照して実施ください。
⑥本体のドレン配管にスケールが溜まっていないか、ストレーナー（本体側および現地側）に汚れ・詰まりがないか、ご確認ください。
汚れがひどい場合は取外して清掃してください。

部　品	点検周期	点検項目	判断基準	保全内容
ベーパーパン	2ヶ月	槽内のスケール付着	スケールの付着なきこと	槽内、シーズヒーターの清掃 スケールの排出
		ドレン抜きからの水漏れ	水漏れなきこと	増締め
過昇防止装置	6ヶ月	検知部のスケール付着	スケールの付着なきこと	検知部の清掃、スケールの除去
蒸気ホース	6ヶ月	接続部の緩み	緩みなきこと	ホースバンドの増締め
		亀裂・割れの有無	亀裂・割れなきこと	ホース交換
ドレンパン 排水トラップ	6ヶ月	汚れ・排水口の詰まり	汚れ・詰まりなきこと	清掃
		取付ネジの緩み	緩みなきこと	増締め
		劣化の有無	著しい劣化なきこと	著しい場合は交換
フロートスイッチ (断水スイッチ)	6ヶ月	外観チェック	劣化・断線なきこと	断線及び劣化著しい場合は交換
		異物付着チェック	異物の付着なく、フロートが スムーズに動くこと	清掃
断水表示ランプ	1年	点灯チェック	断水時点灯	断水時消灯の場合は交換
ストレーナー	1年	汚れ・詰まり	汚れ・詰まりなきこと	清掃、異物の除去

6. その他

（1）リモコン仕様

項目	内容
製品寸法	120（H）X130（W）X19（D）mm
質量	0.2kg
電源	DC12V　室内ユニットのリモコン線より受電
使用環境	温度　　0～40℃ 湿度　　30～90%RH（結露なきこと）
材質	PS
据付方法	JIS8340の2個用のスイッチボックス（現地手配）への取付け、または壁に直付け。 MAリモコン線は、無極性2線でMAリモコン専用端子に接続。 使用電線 　0.3mm^2～1.25mm^{2}の電線を現地にて調達するか 　PAC-YT81HC(10m), PAC-YT82HC(20m)を使用 最大配線長 　max 200m

（2）リモコンによる試運転のしかた

1. 試運転の前に

●室内・室外ユニット据付け・配管・配線作業終了後、冷媒漏れ・各配線の緩みおよび極性間違いがないか今一度確認してください。
●室外ユニットの電源端子盤（R、S、T）と大地間を500Vメガーで計って、1.0MΩ以上あることを確認してください。
　ヒーター付機種および内外受電方式の場合には、ヒーター（ユニット）電源端子盤（R.S.T）も同様に確認してください。
（※）内外接続用端子盤（S1、S2、S3）とリモコン用端子盤（1，2）には絶対かけないでください。故障の原因となります。
●圧縮機保護のため運転を開始する12時間以上前に電源を入れてください。

2. リモコンによる試運転

■試運転方法

操作手順	
1.電源を入れる	リモコンの室温表示が“H0”表示の時はリモコン操作ができません。“H0”が消灯してから操作してください。電源投入後、“H0”は約1分間表示されています。
2.（試運転）ボタンを2度押す	“ 試運転 ”と設定されている運転モードを交互に表示。
3.（運転切換）ボタンを押す	冷房運転‥‥‥冷風の吹出しを確認 送風運転はできません。
4.室外ユニットのファンの運転を確認	室外ユニットは、ファンの回転数をコントロールし能力制御をしています。そのため外気の状態によっては、ファンは低速で回り、能力不足にならない限りその回転数を保持します。 従って、そのときの外風によりファンが停止または逆回転となることがありますが、異常ではありません。
5.（運転/停止）ボタンを押して試運転を解除する	

●試運転は、2時間の［切］タイマーが作動し、2時間後に自動的に停止します。
●試運転中の室温表示部には室内ユニット配管（液管）温度を表示します。
●システム異常検知に15分程度かかる場合があるため、全システム同時運転を15分以上実施してください。

（3）応急運転のしかた

●応急運転モードとは、後述の異常時に異常内容に応じて、応急的に運転させるモードであり、下記の異常検知後自動的に行います。
●2冷媒回路接続の1台のみの異常発生の場合、その室外ユニットのみ応急運転、もしくは異常停止しますが、他方の正常なユニットについては通常通りの運転を行います。
（注）応急運転モードは、あくまで異常発生からサービスマンが到着するまでの応急処置です。速やかに復旧作業を実施してください。

1. 室外ユニット故障の場合

(1)応急運転モードの開始

①異常発生→リモコンに異常検出元と異常コード表示
②異常を検知していない室外ユニットのみの運転に自動で切換わり、運転を継続します。
TH2、TH3、TH5、TH6が異常の場合、センサー値を補完して運転を継続します。
サーミスターの補完運転中に、他のサーミスターの異常を検知した場合は、異常停止します。

＜応急運転可能な異常コード（OC·OS共通）＞

故障箇所		応急運転可能な異常コード	異常コード内容
圧縮機 ファンモーター インバーター		0403	シリアル通信異常
		4220,4225	母線電圧低下異常
		4230,4235	放熱板過熱保護
		4240,4245	過負荷保護
		4250,4255	過電流遮断異常
		5110	放熱板温度センサー異常（THHS）
		5301,5305	電流センサー／回路異常
サーミスター	TH2	5102	サブクール熱交換器バイパス出口温度センサー異常
	TH3	5103	配管温度センサー異常
	TH4	5104	吐出温度センサー異常
	TH5	5105	アキュムレーター入口温度センサー異常（PFD-P560(V)CMT-E(-6)形のみ）
	TH6	5106	サブクール熱交換器液出口センサー異常
	TH7	5107	外気温度センサー異常

※応急運転時は能力が低下します（室外ユニットの故障の台数により能力は変化します）。

(2)応急運転モードの終了

【終了条件】
次のいずれかの条件を満足した場合、応急運転モードを終了します。
①異常リセットした場合
※異常リセット方法：リモコンまたは外部入力による停止操作
②応急運転不可の異常を検知した場合

2. 室内ユニット故障の場合

(1)応急運転モードの開始

● 下表の異常検知時、リモコンに異常コード発報しながら、応急運転を行います。
● 本制御中は、下記の異常データを使用しない状態で、機能低下はしますが運転は継続します（一部アクチュエータは、固定制御となります）。

＜応急運転可能な異常コード（IC）＞

故障箇所		応急運転可能な異常コード	異常コード内容
サーミスター	TH21	5101	吸込み温度センサー異常
	TH22	5102	液側配管温度センサー異常
	TH23	5103	ガス側配管温度センサー異常
	TH24	5104	吹出し温度センサー異常

(2)応急運転モードの終了

以下の場合に応急運転モードを終了します。
● 異常モードリセットされた場合
※ 異常モードリセット方法
・リモコンまたは外部入力による停止操作した場合
● サーミスター異常中に異なるサーミスター異常を検知した場合
※ 例えば、TH21異常にて応急運転中にTH22の異常を新たに検知した場合に終了。
● 応急運転不可の異常を検知した場合

(3)その他

・センサー以外の異常内容の場合、応急運転ではなく、異常停止状態となります。（室内ファンのみ運転。ただし、室内ユニットファン異常時は室内ファンも停止します。）

7. お手入れのしかた

フィルターを取外す場合に注意すること。

●ホコリが目に入り、けがのおそれあり。

ホコリ注意

フィルター清浄・交換など高所作業時は足元に注意すること。

●転倒のおそれあり。

足元注意

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

●けがのおそれあり。

接触禁止

掃除をする場合、電源スイッチを切ること。（電源プラグ付きの製品は、プラグを抜くこと。）

●ファン・回転機器により、けがのおそれあり。

回転物注意

お手入れの内容

パッケージエアコンを末永くより良い状態でお使いいただくために「10.保証とアフターサービス」に従い点検を必ず実施してください。
安全のためにお手入れの前には必ず電源を「切」にしてから行ってください。

フィルターの清掃

お願い

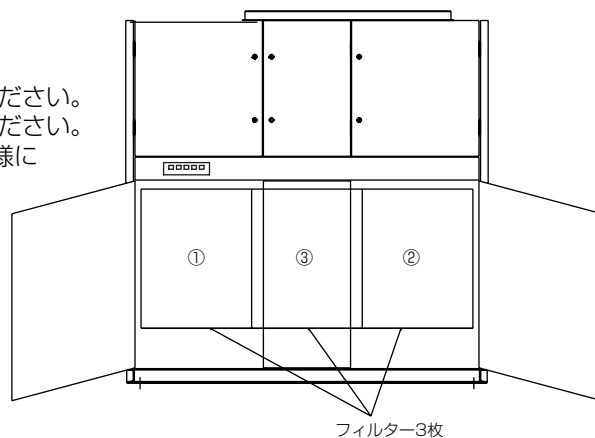
フィルターを取外した状態で運転をしないでください。内部にゴミなどが詰まり、故障の原因となります。

お願い

フィルターの清掃は専門の業者に依頼してください。

※エアフィルターにゴミがたまると、冷房能力の低下や故障の原因になります。

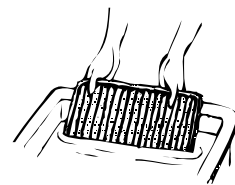
(1)フィルターを取外す。

フィルターの外し方
①左側パネルを開け フィルターを上げ、手前に引いて外してください。
②右側パネルを開け フィルターを上げ、手前に引いて外してください。
③センターはフィルターを右に寄せてから、②フィルターと同様に外してください。

(2)フィルターのホコリを掃除機で吸い取るか、水洗いする。

■汚れがひどいときは、中性洗剤を溶かした、ぬるま湯ですすいでください。
■熱い湯（約50℃以上）で洗わないでください。変形することがあります。
●もみ洗いや強く絞ることはさけてください。
●すすぎは十分に行い、洗剤が残らないようにしてください。

(3)水洗いしたあと、日陰でよく乾かす。

■フィルターは直接日光や直接火にあてて乾かさないでください。
●変形・変色することがあります。

(4)フィルターを元の状態に取付ける。（取外しの逆の手順）

ドレン排水の点検

ドレン排水はスムーズに流れているか調べてください。排水不良の場合は紙粉などでドレンパンの溝部分および配水管のトラップ部がつまっていないか調べてください。
なお、ドレンパン溝部分および配水管のトラップ部は詰まらないようにこまめに清掃してください。
トラップは、必ず封水された状態を保持してください。

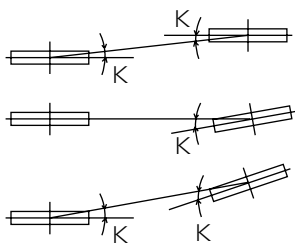
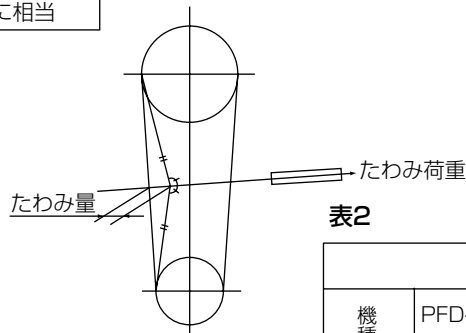
Vベルトの点検

1.ファンプーリーと電動機プーリーの平行度は図1.表1の規格を満足するようにセットしてください。
2.Vベルトの1本当たりの張力は適正たわみ量の時のたわみ荷重が表2の値になるようにセットしてください。
3.ベルトがプーリーになじんだ後、(運転後24～28時間以後)図2の適正張りに調整することをお奨めします。
　また、新しいベルトの場合は、たわみ荷重の最大値の約1.15倍程度に調整するようにしてください。
4.Vベルトは8000時間ごとに交換することをお奨めします。
　[Vベルトは初期のび(約1%)を含め、ベルト周長が約2%のびた時点で寿命です。]

表1

プーリー ＼ 平行度	K(分)	備　　考
鋳鉄製プーリー	10以下	1m当たり3mm のずれに相当

図1　　図2

表2

たわみ荷重[N/本]
【たわみ量[mm]】

		モーター容量
		7.5kW
機種名	PFD-P560(V)CMT-E(-2C)	26.0～28.5[N/本]【5.5[mm]】
	PFD-P560(V)CMT-E(-2C)-6	24.0～27.5[N/本]【5.0～5.5[mm]】

※静風圧変更によるプーリー組合せによって，電動機出力が異なる機種があります。

熱交換器の洗浄

長期間エアコンを使用しますと、空冷式の熱交換器の場合にはほこりなどが付着し、熱交換が悪くなって冷房能力が低下します。
洗浄方法についてはお買い上げの販売店にご相談ください。

送風機軸受のグリース補給

軸受を長期間安心してご使用戴くために、1年に1回程度新しいグリースを補給してください。グリース寿命を延ばすとともに軸受寿命を長くすることができます。グリースは次のものをご使用ください。

シェル石油	アルバニヤグリースNo.3 石けん基　リチウム系
グリース補給量	10.5g

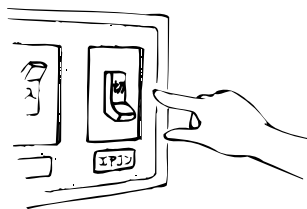
パネルの清掃

中性洗剤を柔らかな布にふくませて拭き、最後に乾いた布で洗剤が残らないよう拭き取ります。

ベンジン・シンナーの使用は避けてください。

8. 長期間ご使用にならないとき

長期間ご使用にならないとき

(1)4～5時間、送風運転して室内ユニット内部を乾燥させる。
(2)室内ユニットの電源を切る。

再度使い始めるとき

■下記作業(1)～(4)の点検を行い、異常のないことを確認後、電源を入れてください。

(1)フィルターを清掃して、取付ける。
(2)室内・室外ユニットの吹出口・吸込口がふさがれていないことを確認する。
(3)アース線が外れていないことを確認する。室内ユニットにも取付けてある場合があります。

C種接地工事（アース工事）は第一種電気工事士の資格のある電気工事業者が行うこと。 ● アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。 ● アースに不備がある場合、ユニットがノイズにより誤動作し、感電・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。	 アース接続	D種接地工事（アース工事）は第一種電気工事士の資格のある電気工事業者が行うこと。 ● アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。 ● アースに不備がある場合、ユニットがノイズにより誤動作し、感電・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。	 アース接続

(4)ドレンホースの折れ曲がり、先端の持ち上がり、詰まり、トラップの破損などのないことを確認し、トラップに注水して、封水されていることを確認する。
(5)運転開始の12時間以上前から必ずエアコンの電源を「入」にする。

9.「故障かな？」と思ったら

●動かない！

症状	原因・処置
室内ユニットの運転表示（緑）が点灯しない。	■電源が入っていないことが考えられます。電源をご確認ください。 ユニットの電源が入っていないと、ユニットの通電表示（白）が点灯しません。

●リモコン設定、および表示について

症状	原因・処置
室内ユニット内操作機表示部、上位コントローラーなどにエラーコードが表示される。 室内ユニットの異常表示灯（赤）が点灯している。	■自己診断機能が作動してエアコンを保護しています。 ※自分では絶対に修理しないでください。 お買上げの販売店に製品名・エラーコードの表示内容を連絡してください。
リモコンの運転表示が点灯しない。	■電源が入っていないことが考えられます。電源をご確認ください。 ユニットの電源が入っていないと、リモコンに通電表示（◉）が点灯しません。
リモコン表示部に“集中管理中”の表示が出ている。	■通常・点検切換スイッチを“通常”に設定している場合に表示します。
リモコンに“H0”の表示が出ている。	■初期設定（約1分）を行っているためです。そのままお待ちください。 停電からの復帰時や室内ユニットまたは室外ユニットの電源を入切した場合など表示します。

●勝手に動き出した！

症状	原因・処置
運転・停止ボタンを押さないのに動き出した。	■上位コントローラーや遠方発停入力などで、操作した場合に運転を開始します。 ■停電自動復帰機能に設定されているため、運転中に停電または電源を切った後、電源を入れると、自動的に運転を開始します。

●勝手に停止した！

症状	原因・処置
運転・停止ボタンを押さないのに停止した。	■上位コントローラーや遠方発停入力などで、操作した場合に運転を停止します。

●よく冷えない！

症状	原因・処置
よく冷えない。	■温度調節を確認して、設定温度を調節してください。 ■フィルターが汚れ、目詰まりして風量が低下している場合は、フィルターの清掃をしてください。 ■室内ユニットの吹出し口・吸込み口が塞がれている場合は、室内ユニット周囲空間を広く開けてください。
再運転のために停止後すぐに運転・停止ボタンを押したがすぐ運転しない。	■空調機を保護するため、マイコンの指示で止まっています。 再運転をした場合は、運転するまで約20秒間お待ちください。

●音がする！

症状	原因・処置
水の流れるような音や時々“プシュ”と音がする。	■ユニット内部の冷媒が流れている音や、冷媒の流れが切換わるときの音です。 異常ではありません。 ※もし気になるような音の場合は、お買上げ販売店にご相談ください。
“ピシッ、ピシッ”という音がする。	■温度変化で部品などが膨張・収縮して、こすれる音です。 異常ではありません。 ※もし気になるような音の場合は、お買上げ販売店にご相談ください。

●水蒸気・水（室内ユニット）が出る！

症状	原因・処置
室内ユニットより白い霧状の水蒸気が出る。	■室内の温湿度が高い場合、運転の始めにこのような現象が起こる場合があります。異常ではありません。
室外ユニットより水・水蒸気が出る。	■冷房時に冷えた配管や配管接続部に水滴がつき滴下するためです。

●風が出てこない！

症状	原因・処置
すぐに風が出ない。	■電源が入っていないことが考えられます。電源をご確認ください。 ユニットの電源が入っていないと、ユニットの通電表示（白）が点灯しません。 ■運転中にもかかわらず、風が出てこない場合は、送風用モーターの異常などが考えられます。お買い上げ販売店にご相談ください。

10. 保証とアフターサービス

■この製品は日本国内用ですので、日本国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。

This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

■保証書は室外ユニットに添付しております。

■ご不明な点や修理に関するご相談はお客様相談窓口（別添）にお問い合わせください。

■本製品を良好な状態で長く、安心してお使いいただくために、日常点検（フィルター清掃など）以外に、専門技術者による定期的な保守点検を実施してください。

標準的な保守・点検の「点検周期」、および定期点検に伴う「保全周期」を以下に示します。

1 保守・点検周期

1.予防保全の目安

以下の保全周期は、定期点検の結果に基づき必要になるであろう部品交換、修理実施の予測周期を示すものであり、保全周期で必ず交換が必要ということではありません。

また、**保証期間を示しているものではありませんのでご注意ください。**

表1．保守・点検周期

ユニット	部　　品	点検周期	保全周期	日常点検	保守点検	備　　考
室内	ファンモーター	6カ月	40000時間		○	
	ベアリング		40000時間		○	1回/年の頻度で潤滑油を給油
	ファンベルト		8000時間		○	消耗部品
	エアフィルター	3カ月	5年	○		点検周期は、現地状況にて影響されます
	ドレンパン（エマージェンシードレンパンを含む）	6カ月	8年		○	
	ドレンホース		8年		○	
	電子膨張弁	1年	25000時間		○	
	熱交換器		5年		○	
	フロートスイッチ	6カ月	25000時間		○	
	表示LEDランプ	1年	25000時間		○	
	ベーパーパン加湿器（17ページ参照）	2カ月	25000時間			ベーパーパン加湿器（受注/別売）組込み時
室外	圧縮機	6カ月	40000時間		○	
	ファンモーター		40000時間		○	
	電子膨張弁	1年	25000時間		○	
	四方弁		25000時間		○	
	熱交換器		5年		○	
	圧力スイッチ		25000時間		○	
	アクティブフィルター冷却ファン		40000時間		○	アクティブフィルター（別売）組込み時

2.注意事項

●上表の保守・点検周期は、以下のご使用条件の場合です。

A．頻繁な発停のない、通常のご使用条件であること。（機種によって異なりますが、通常のご使用における発停回数は、6回／時間以下を目安としています。）

B．製品の運転時間は、24時間／日と仮定しています。

●また、下記の項目に適合する場合には、「保守周期」の短縮を考慮する必要があります。

①温度・湿度の高い場所、あるいはその変化の激しい場所でご使用される場合。

②電源変動（電圧、周波数、波形歪み等）が大きい場所でご使用される場合。（許容範囲外での使用はできません）

③振動、衝撃が多い場所に設置されご使用される場合。

④塵埃、塩分、亜硫酸ガスおよび硫化水素などの有害ガス・オイルミスト等良くない雰囲気でご使用される場合。

●点検周期に基づいた定期点検実施の場合でも予期できない突発的偶発故障が発生することがあります。この場合、保証期間外での故障修理は有償扱いとなります。

●補修用部品の保有期間について

この製品の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後9年間となっています。この期間は経済産業省(旧通商産業省)の指導によるものですが、当社はこの基準により補修部品を調達した上、修理によって性能を維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理を実施致します。

●電気部品に絶対に水（洗浄水）をかけないでください。感電、発煙、発火の原因になります。

2 定期点検内容

表2．保守・点検内容

ユニット	部　　品	点検周期	点検項目	判定基準	保全内容
室内	ファンモーター	6カ月	・運転音の聴覚チェック ・絶縁抵抗の測定	・異常音なし ・絶縁抵抗が1MΩ以上のこと	絶縁劣化の場合、交換
	ベアリング		・運転音の聴覚チェック	異常音なし	給油しても異常音ある場合、交換 1回/年の頻度で潤滑油を給油
	ファンベルト		・張り度合いチェック ・摩耗､傷の有無外観チェック ・運転音の聴覚チェック	・たわみ荷重3～4kg/本、 たわみ量5mm程度が適正 ・ベルト周長の伸びが初期に比べ2%以下 ・摩耗、傷なし ・異常音なし	張り調整 ベルト周長伸びが2%以上､もしくは8000時間以上の運転で交換 摩耗、傷ある場合、交換
	エアフィルター	3カ月	・汚れ、破損の外観チェック ・清掃	・汚れ、破損なし	清掃 汚れひどく、破損の場合、交換
	ドレンパン（エマージェンシードレンパンを含む）	6カ月	・汚れ、排水口詰まりチェック ・取付け部ネジ緩みチェック ・劣化有無チェック	・汚れ、詰まりなし ・ネジ緩みなし ・著しい劣化なし	汚れ、詰まりの場合清掃 ネジ増し締め 劣化著しい場合、交換
	ドレンホース		・封水の確認 （ホース内に注水する） ・汚れ、排水口詰まりチェック ・劣化有無のチェック	・汚れ、詰まりなし ・著しい劣化なし	汚れ、詰まりの場合清掃 劣化著しい場合、交換
	電子膨張弁	1年	・運転データによる動作チェック	制御開度変化に対する温度変化が妥当なこと（集中操作器にて温度変化確認）	動作不良で、要因が本体の場合、交換
	熱交換器		・詰まり、汚れ、損傷チェック	詰まり、汚れ、損傷なし	清掃
	フロートスイッチ	6カ月	・外観チェック ・異物付着チェック	・劣化、断線なきこと ・異物なきこと	断線、および著しい劣化の場合、交換 異物付着の場合、清掃
	表示LEDランプ	1年	・点灯チェック	・出力ONで点灯 ・輝度低下	出力ONでも消灯の場合、ランプ交換
	ベーパーパン加湿器	2カ月	・槽内のスケール付着 ・ドレン抜きからの水漏れ	・スケールの付着なきこと ・水漏れなきこと	異物付着の場合、清掃 電磁弁動作不良で、要因が本体の場合、交換
室外（空冷）	圧縮機	6カ月	・運転音の聴覚チェック ・絶縁抵抗の測定 ・端子緩み外観確認	・異常音なし ・絶縁抵抗が1MΩ以上のこと ・端子緩みなし	冷媒が寝込んでない状態で絶縁劣化の場合、交換 端子緩みの場合、増し締め
	ファンモーター（空冷室外ユニットのみ）		・運転音の聴覚チェック ・絶縁抵抗の測定	・異常音なし ・絶縁抵抗が1MΩ以上のこと	絶縁劣化の場合、交換
	電子膨張弁	1年	・運転データによる動作チェック	制御開度変化に対する温度変化が妥当なこと（集中操作器にて温度変化確認）	動作不良で、要因が本体の場合、交換
	四方弁		・運転データによる動作チェック	弁切換え時で温度変化が妥当なこと（冷房/暖房運転切換え時の温度変化確認）	動作不良で、要因が本体の場合、交換
	熱交換器		・詰まり、汚れ、損傷チェック	詰まり、汚れ、損傷	清掃
	圧力スイッチ		・断線、劣化、コネクター抜けチェック ・絶縁抵抗の測定	・断線、劣化、コネクター抜けなし ・絶縁抵抗が1MΩ以上のこと	断線、ショート、著しい劣化、絶縁劣化の場合、交換
	アクティブフィルター冷却ファン		・運転音の聴覚チェック ・絶縁抵抗の測定	・異常音なきこと ・絶縁抵抗が1MΩ以上のこと	異常音あり、絶縁劣化の場合は、交換

■エアコンに使用されている冷媒は安全です。冷媒は通常漏れることはありませんが、万一冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。冷媒漏れの修理の場合は、漏れ箇所の修理が完全に行われたことをサービスマンに確認してください。

■アフターサービスご契約のおすすめ

●当社指定のサービス会社と保守契約（有料）いただければ、専門のサービスマンがお客様に代わって保守点検を致します。
万一の故障時も早期に発見し適切な処置を行う事ができます。

■保証書について[保証期間は、お買い上げ日または据付日または試運転完了日から起算して1年間です。]

●保証書はお買い上げの店で所定事項を記入しお渡ししますので、記載内容をご確認の上、大切に保管してください。

●保証期間中、万一故障した時は、お買い上げの店または指定のサービス店にご連絡ください。
保証書の記載事項に基づいて1年間は無償修理致します。**[保証期間経過後の修理は有償になります。]**
保証期間中でも有償になる場合もありますので、保証書をよくお読みください。

●良好な状態で長く安心してご使用いただくために、お客さまに実施していただく日常点検（フィルター清掃など）以外に専門技術者による定期的な保守点検を実施してください。
標準的な保守点検の、「点検周期」および定期点検に伴う「保全周期」[主要部品の交換・修理実施周期]は、表-1を目安にされると便利です。また、代表的「消耗部品」の例を表-2に示します。
なお、保守点検の内容は契約会社によって若干異なる場合がありますので、契約時によくお確かめください。

■移設および廃棄について

●転居などでエアコンを移動再設置する場合は専門の技術が必要ですので、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様相談窓口にご相談ください。

●エアコンを廃棄される時は冷媒の回収などが必要ですので、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様相談窓口にご相談ください。

11. 移設・工事・点検について

■移設について

①増改築・引越しのためエアコンを取外したり再据付けをする場合は、移設のための専門の技術や工事の費用が必要になりますので、あらかじめ販売店にご相談ください。
②据付けや移設時に冷媒を追加充填する場合は、指定冷媒以外のものを混入させないでください。

■設置場所について

①設置・移設する場合は、販売店または専門業者にご相談ください。
②次の場所への据付けは避けてください。
・炎の近くや溶接時のスパッターなど火の粉が飛び散るところ
・可燃性ガスの漏れるおそれがあるところ
・酢（酢酸）を多量に使用するところ
・海浜地区等塩分の多いところ
・温泉地などの硫化（イオウ系）ガスの発生するところ
・酸性の溶液を頻繁に使用するところ
・粉や蒸気が多量に発生するところ
・油煙のたちこめるところ
・湿気の多い場所
・高周波加工機（高周波ウェルダー等）のあるところ
・特殊なスプレーを頻繁に使用するところ
など、エアコンの周囲雰囲気が特殊な場所で使用しますと、多くの場合エアコンの故障のもとになります。
詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。
③室内ユニットは必ず水平に据付けてください。水たれなどの原因となります。

■保守点検契約のおすすめ

●エアコンを数シーズンご使用になりますと内部が汚れ、性能が低下することがあります。ご使用状態によっては臭いが発生したり、ゴミ、ホコリなどにより除湿水の排水が悪くなることがあります。通常のお手入れとは別に保守点検契約（有料）をおすすめします。

■電気工事について

①電気工事は、第一種電気工事士の資格がある方が「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および据付工事説明書に従って施工してください。
②電源はエアコン専用の回路を設けているか販売店にご確認ください。他の電気製品と回路を共用しますと、ブレーカーやヒューズが切れることがあります。
③万一の感電防止のため、アースを取付けてください。
詳しくはお買い上げの販売店にご確認ください。
④据付場所によっては、漏電ブレーカーの取付けが義務付けられています。詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。
⑤ブレーカー・ヒューズなどは正しい容量のものをご使用ください。

■騒音にもご配慮を

①据付けにあたっては、エアコンの重量に十分耐える場所で騒音や振動が増大しないような場所をお選びください。
②室外ユニットの吹出口からの温風や騒音が隣家の迷惑にならないような場所をお選びください。
③室外ユニットの吹出口の近くに物を置きますと、性能低下や騒音増大のもとになりますので、吹出口付近には障害物を置かないでください。
④エアコンをご使用中、異常音がする場合などは、お買い上げの販売店にご相談ください。
⑤室外ユニットの製品仕様表などに記載されている騒音値は、無響音室にて測定した場合の値です。従って現地での据付環境、および反響によって騒音値は大きく影響されますので注意が必要です。
通常の住宅地など静粛性が要求されるような居住地域への隣接設置は避けてください。

フロン排出抑制法　第一種特定製品

1）フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
2）この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要です。
3）冷媒の種類及び数量並びにGWP（地球温暖化係数）は、室外ユニットの定格銘板あるいはユニット内部の冷媒量記入ラベルに記載されています。
4）冷媒を追加充填した場合やサービスで冷媒を入れ替えた場合には室外ユニット内部の冷媒量記入ラベルに必要事項を必ず記入してください。

12. 仕　様

＜標準仕様＞

● PFD-P560CMT-E(-2C)(-6)形

<table>
<tr><td colspan="3"></td><td>PFD-P560CMT-E(-2C)</td><td>PFD-P560CMT-E(-2C)-6</td></tr>
<tr><td colspan="2">冷房能力</td><td>kW</td><td colspan="2">56.0</td></tr>
<tr><td colspan="2">電源</td><td></td><td>三相200V　50Hz</td><td>三相200V　60Hz</td></tr>
<tr><td rowspan="2">送風機</td><td>風量</td><td>m3/min</td><td colspan="2">240</td></tr>
<tr><td>機外静圧</td><td>Pa</td><td colspan="2">250</td></tr>
<tr><td colspan="2">運転音</td><td>dB</td><td colspan="2">67.0</td></tr>
<tr><td colspan="2">外形寸法（H×W×D）</td><td>mm</td><td colspan="2">1950×1900×800</td></tr>
<tr><td colspan="2">質量</td><td>kg</td><td colspan="2">560</td></tr>
</table>

注1.上記仕様値は標準条件での値です。風量機外静圧を変更しますと、能力、騒音値も変化します。
注2.上記の騒音値は、A特性です。

＜異電圧仕様＞※受注対応

● PFD-P560VCMT-E(-2C)(-6)形

<table>
<tr><td colspan="3"></td><td>PFD-P560VCMT-E(-2C)</td><td>PFD-P560VCMT-E(-2C)-6</td></tr>
<tr><td colspan="2">冷房能力</td><td>kW</td><td colspan="2">56.0</td></tr>
<tr><td colspan="2">電源</td><td></td><td>三相380V,400V,415V　50Hz</td><td>三相400V,415V,440V　60Hz</td></tr>
<tr><td rowspan="2">送風機</td><td>風量</td><td>m3/min</td><td colspan="2">240</td></tr>
<tr><td>機外静圧</td><td>Pa</td><td colspan="2">250</td></tr>
<tr><td colspan="2">運転音</td><td>dB</td><td colspan="2">67.0</td></tr>
<tr><td colspan="2">外形寸法（H×W×D）</td><td>mm</td><td colspan="2">1950×1900×800</td></tr>
<tr><td colspan="2">質量</td><td>kg</td><td colspan="2">564</td></tr>
</table>

様式1　冷媒漏えい点検記録簿（汎用版）　　年　月　日～　年　月　日

管理番号	

施設所有者				設備製造者				
施設名称		系統名		設置年月日				
施設所在地		電話		使用機器	型式		製品区分	
運転管理責任者		電話			製番		設置方式	現地施工
点検事業者 会社名		責任者			用途	空調用	検知装置	
点検事業者 所在地		電話		冷媒量（kg）	合計充填量	合計回収量	合計排出量	排出係数（%）
使用冷媒	R410A 初期充填量（kg）	点検周期 基準	実績（月）					

作業年月日	点検理由	充填量（kg）	回収量（kg）	監視・検知手段（最終）	センサー型式	センサー感度	資格者名	資格者登録No.	ﾁｪｯｸﾘｽﾄNo.	確認者

●JRA* GL-14「冷凍空調機器の冷媒漏えい防止ガイドライン」に基づく冷媒漏えい点検のお願い

本製品を所有されているお客様に、製品の性能を維持して頂くために、また、冷媒フロン類を適切に管理して頂くために、定期的な冷媒漏えい点検（保守契約などによる、遠隔からの冷媒漏えいの確認などの、総合的なサービスも含む）（いずれも有償）をお願いいたします。
定期的な漏えい点検では、漏えい点検資格者によって「漏えい点検記録簿」へ、機器を設置した時から廃棄する時までの全ての点検記録が記載されますので、お客様による記載内容の確認とその管理（管理委託を含む）をお願いいたします。
なお、詳細は下記のサイトをご覧ください。*JRA:社団法人 日本冷凍空調工業会
・JRA GL-14について、http://jraia.or.jp/info/gl-14/index.html
・フロン漏えい点検制度について、http://www.jarac.or.jp/business/cfc_leak/

●長年ご使用のエアコンの点検を！

エアコン補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後９年です。

ご使用の際、このようなことはありませんか？

- ●運転音が異常に大きくなる。
- ●室内ユニットから水が漏れる。
- ●電源が頻繁に落ちる。
- ●その他の異常や故障がある。

故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店に点検・修理をご相談ください。

後日のために記入しておくと便利です。	
お買い上げ店名	電話
お買い上げ(据付)日	年　月　日

三菱電機株式会社

本社　〒100-8310　東京都千代田区丸の内2-7-3（東京ビル）
冷熱システム製作所　〒640-8686　和歌山市手平6-5-66

WT05987X03